大人用

伝道地便り

2025年第２期　南アジア太平洋支部

第１話「不吉な子から愛される子へ」	タイ
第２話「神様へと続く長い道のり」	タイ
第３話「奇妙な物音」	フィリピン
第４話「規則が多すぎる」	インドネシア
第５話「教会のない町のための祈り」	インドネシア
第６話「ジャングルの奇跡」	インドネシア

ADVENTIST MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団　伝道局　安息日学校部

伝道地便りの用い方の ヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

1）前もって何度か目を通し、自信を持って読む。

2）棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。

3）伝える時間はできるだけ短く。長くても５～７分。

4）だれが、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。

5）できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。

6）時には、スキット（寸劇）風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。
主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」
紹介しましょう。

1. 不吉な子から愛される子へ　タイ

チャイナ

チャイナは、イエス・キリストのみ名を憎んで育ちました。彼はカンボジアに住んでいて、キリスト教ではない世界宗教を信じていました。彼の家族もキリスト教を嫌っていました。

しかし、ある時から、彼自身が家族から憎まれるようになりました。

それは、チャイナのおじいさんが急に亡くなったことから始まりました。チャイナはおじいさんが大好きで、おじいさんと多くの時間を過ごしていました。チャイナたちの宗教では、だれかと多くの時間を過ごした人は、その人に起こった悪いことに責任がある、と考えられていました。そのためチャイナの家族は、彼が不吉な子かもしれない、と思い始めたのです。

続いてチャイナのおじさんも急に亡くなりました。チャイナはおじさんとも多くの時間を過ごしていました。それで家族たちは、いよいよ、彼は不吉な子なのではないかと思うようになりました。

それから、チャイナの両親は破産しました。両親は持ち物をすべて売り払いましたが、それでも借金が残っていたので、国境を越えてタイに引っ越し、テレビ工場で働くことになりました。しかし、チャイナは1人、残るように言われました。

「お前は家族に平和ではなく破壊だけをもたらしたんだ」と家族の1人が言いました。「お前なんて生まれてこなければよかった」と別の人が言いました。

チャイナは18歳でした。彼はとても孤独を感じました。

ある時、友人が、セブンスデー・アドベンチスト教会で行われているギター教室に誘ってくれました。チャイナはとても迷いました。アドベンチストたちがイエス様のことを愛していることを彼は知っていたからです。彼はイエス様が大嫌いです。しかし、ギターは大好きで、ぜひ弾けるようになりたいと思っていました。

チャイナはアドベンチスト教会に行きました。

それから、チャイナは教会のギター教室を一度も休みませんでした。牧師も牧師夫人もすぐに好きになりました。2人が話してくれるイエス様は、両親から聞いていたイエス様とはかなり違っていました。イエス様は自分を愛してくれる人だけを愛するのではなく、憎んでいる人をも愛されていることを知りました。イエス様の愛はとても大きく、ご自身を憎む人々でさえ永遠に生きることができるように死んでくださるほどなのです。

チャイナは毎週安息日に教会に行くようになりました。イエス様への愛が心の中で大きくなり、彼はバプテスマを受けました。彼は、両親と再会できるように祈りました。自分のことを不吉な子だと恐れることなく受け入れてほしいと思ったのです。「家族が戻って来ますように」と、彼は毎日祈りました。「僕はこれから一生あなたにお仕えします。他の神には仕えません」とも祈りました。

しかし、イエス様は沈黙されているように思えました。チャイナはクリスチャン生活における信仰の役割についてしっかりと理解していませんでした。家族で信じていた伝統的な宗教では、行いを最も強調していました。そこで、彼は祈りながら、自分が祈りに答えていただくのにふさわしい人間であるこ

とを、行いによって証明しようと決めました。彼は「ワン・イヤー・イン・ミッション」というプロジェクトに参加しました。これは、教会で1年間宣教の働きをするというものでした。それから彼はフランス人宣教師がカンボジアで聖書を配布するのを手伝いました。この教会での働きによって、イエス様が自分の祈りを聞いてくれると彼は期待していました。しかし、イエス様はまだ沈黙されているようでした。時々、チャイナは憤って、こう祈りました。「私はあなたのためにこんなに働いています。どうして私のために何もしてくださらないのですか」

5年後、チャイナの両親がカンボジアに戻ってきました。ほかに選択肢はありませんでした。タイの当局は彼らの就労ビザを更新しなかったからです。土地も家もなかったので、2人はチャイナの誘いを受け入れて、彼が借りている家に一緒に住むことになりました。彼が不吉な子かどうかはもう関係なくなりました。ほかに行くところはなかったのです。

安息日に、チャイナは両親を教会に誘いました。「2人ともお金が全然ないでしょう。教会に行ったら私たちみんなの分の食べ物があるよ」と、彼は言いました。

教会員たちはチャイナの両親を温かく迎え、2人は会食を楽しみました。次の安息日、彼らはまた会食と交わりのために教会に行きました。彼らの心は柔らかくなり始めました。教会で聞いたイエス様の姿は、今まで長い間、嫌ってきたものとはまったく違っていました。1年が過ぎ、2人はバプテスマを受けました。

これはチャイナが想像していた以上の奇跡でした。イエス様は両親をカンボジアに戻してくださいという祈りに答えてくださっただけでなく、両親の心も勝ち取られたのです。イエス様は、彼の願った以上のことをしてくださいました。チャイナは驚きをもって知りました。イエス様は彼の行いによってではなく、イエス様ご自身の品性によって、祈りに答えてくださったことを知ったのです。

現在、チャイナはもう自分を不吉だとは思っていません。愛されていると感じています。彼は一生イエスにお仕えすると言った約束を忘れてはいません。彼は今、タイにあるアジア・パシフィック国際大学で、宣教の働きに人生をささげる準備をしています。

チャイナは、13回献金によってアジア・パシフィック国際大学で学んでいる何千もの学生の1人です。1988年の献金によって、当時タイ・ミッション・カレッジと呼ばれていたキャンパスが建てられました。それから36年経ちましたが、13回献金は今もチャイナやそのほかの学生たちに恩恵を与え続けています。宣教の働きへのあなたの忠実な献金に感謝します。

〈お話のヒント〉

- カンボジアとタイの場所を地図で示してください。それから、アジア・パシフィック国際大学のあるムアクレクを示してください。
- YouTubeでチャイナを見てみましょう。bit.ly/Chhaina-SSD
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ssd-2025

- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。
  「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分でない地域に住む人々に対するアドベンチストの働きを強化し多様化させる」（「伝道の目標」No.2）
  「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
  「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
  「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
  詳細はウェブサイトIWillGo2020.orgをご覧ください。

宣教メモ

- セブンスデー・アドベンチストの教えがタイに伝わったのは1906年と1907年です。
- タイにおける初期の働きは主に中国人によって行われました。

2. 神様へと続く長い道のり　タイ

パダ

タイに住む 12 歳のパダは、お兄さんのモルジャがなぜ家で信仰していた宗教を捨ててセブンスデー・アドベンチストになったのかと思っていました。モルジャは、それをパダ自身の目で確かめるために、お兄さん自身とその妻、そして 3 人の息子たちと一緒に暮らすことを提案し、モルジャはお兄さん家族と一緒に暮らすことになりました。

パダがモルジャとその家族と一緒に毎週安息日に 13 キロの道のりを教会まで歩いて行くようになってから何週間も、そして何か月も過ぎました。

パダは今も、モルジャがなぜアドベンチストになったのか考えていました。その答えはすぐには得られませんでした。しかし、彼は、モルジャが安息日に教会に行くことに関してとても忠実であることに気づきました。雨が降っていたり寒かったりしても、お兄さんの家族はいつも夜明け前に起きて、教会まで長い距離を歩くのです。彼はまた、モルジャが什一と諸献金にとても忠実であることにも気づきました。毎週安息日に、彼は献金かごにお金を入れていました。モルジャは弟に、このお金は神様のものなのだと説明しました。

「僕は神様に、神様ご自身のものを感謝の印としてお返ししているんだよ」と、彼は言いました。

パダは生まれてから 12 歳になるまで、お母さんととても貧しい暮らしをしていました。モルジャがお金を惜しみなくささげることができるのか、彼にはわかりませんでした。しかし、彼は、モルジャがお金に困っている様子がまったくないことに気づきました。食べ物やその他の必需品も、いつも十分にありました。

1 年が過ぎました。2 年が過ぎました。3 年が過ぎました。モルジャの 3 人の息子たちは成長して別の町にあるアドベンチストの学校に行きました。モルジャは金持ちではありませんでしたが、どういうことか息子たちの学費を工面することができました。

パダは学校に行ったことがありませんでした。彼はもう 15 歳になっていて、自分も学校に行きたいと思いました。自分の困った立場について考えたとき、彼は思いました。「もしかしてこれが、モルジャがアドベンチストになった理由なのかな。お金持ちではないけど、不自由はしていなさそうだ。食べ物も着る物もあるし、息子を学校にも行かせられる。モルジャは神様を愛していて、神様はモルジャの必要をすべて満たしてくださっているのだ」

神様への愛がパダの心の中に根付きました。彼は、兄のすべての必要を満たしてくださっている神様のために生きたいと願いました。神様を知る前から、パタ自身の必要を満たしてくださっている神様のために生きたいと願いました。パダは自分の心を神様にささげてバプテスマを受けました。彼を支援してくれる家族はいませんでしたが、17 歳のときにアドベンチストの学校に入学しました。彼は熱心に勉強しました。また、学費を払うために熱心に働きました。

学校を卒業すると、パダはすべての人の必要を満たしてくださる神様のことを人々に伝えようと決心しました。彼はミッション・カレッジ（現在のアジア・パシフィック国際大学）に進学し、牧師になりました。

現在、パダは牧師であり、タイのアドベンチスト教会の指導者になっています。アドベンチストの学校で出会った妻と、3人の娘がいます。彼は良い教育を受けました。良い車に乗っています。十分な収入を得て、什一と諸献金を忠実にお返ししています。彼の家族にはいつも十分な食べ物と衣類があります。

パダは何よりも、天の神様について人々に伝えることが大好きです。彼はタイとミャンマーの国境にある、子ども時代を過ごした山の中の村によく戻ります。山に住む人々は今もとても貧しく、神様を信じる人はほとんどいません。パダはいつも、50か100バーツ（230～460円）のお札を入れた封筒を50以上用意して、村人たちに配ります。大きな額ではありませんが、彼らにとってもは貴重な贈り物です。彼がその封筒を手渡すと、村人たちは最高の笑顔で彼にお礼を言います。そしてお互いにこう言うのです。「パダは私たちの仲間です。ここで育ったのに、良い教育を受けて、良い車に乗って、十分な収入を得ています。彼の神様が彼の面倒を見てくださっています。彼の神様は、私たちの面倒も見てくださるかもしれません」

パダは自分の仲間であるこの山の人々がいつの日か、彼の神がすでに彼らの面倒を見てくださっていて、彼らを永遠へと救いたいと望んでおられることを知ってほしいと思っています。

1988年の13回献金の一部は、パダが牧師になるための訓練を受けたアジア・パシフィック国際大学に食堂と第二校舎を建てるために使われました。当時学生だったパダは、食堂の建設を手伝いました。当時の13回献金の影響が、パダの人生やその他のアジア・パシフィック国際大学で学んだ多くの学生たちの人生をとおして見られるように、今期の献金も、神の祝福により、長く続く影響を与えることでしょう。皆様の惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- タイの場所の場所を地図で示してください。
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ssd-2025

- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。
  「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分でない地域に住む人々に対するアドベンチストの働きを強化し多様化させる」（「伝道の目標」No.2）
  「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
  「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
  「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
  詳細はウェブサイトIWillGo2020.orgをご覧ください。

〈豆知識〉

- ムエタイはタイの国技で、こぶし、肘、膝、すねを使って戦うことから「八肢（はっし）の武術」とも呼ばれています。
- タイの森には、像、ヒョウ、トラ、野牛、そしてマレーバクが生息しています。マレーバクは、身体のまえ半分が黒い毛、うしろ半分が白い毛で覆われています。
- タイでは、世界で一番小さい哺乳類と世界で一番大きな魚を見ることができます。キティブタバナコウモリはたったの2グラムしかありません、クリップ2個分ほどの重さです。ジンベエザメはタイの近海で見られますが、体重は20トンほどで、体長は18.8メートルにもなります。

3. 奇妙な物音

フィリピン

ジェームズ

ジェームズが、新しく借りた家に引っ越してきてすぐ、隣の家に住む夫婦が訪ねてきて、この家は呪われていると言いました。

「君の家には霊が住みついているよ」と、夫が言いました。

「夜になると物音が何度も聞こえてきて、眠れないの」と、妻が言いました。

２人は、おかしな声や、奇妙な足音、何かが床に落ちる音などが聞こえてくると言いました。

ジェームズは霊についての話を聞いて、おかしいと思いました。その家は長いこと空き家になっていましたが、彼は心配しませんでした。彼は学生宣教師で、お化け屋敷や動き回る霊といったものは恐くありませんでした。聖書には、イエス様が起こされるまで死者は地中で眠っていると書かれてあることを知っていました。また、神様は自分を説明のつかない物音から守ってくださると確信していました。

ジェームズは、この夫婦に訪ねてきてくれたことに感謝をあらわし、「そのようなことは何も起こっていませんよ」と、答えました。

ジェームズと仲間の学生宣教師は、フィリピンの離島で１年間奉仕するために、この小さな木造の家に来ていました。家は薄い灰色に塗られていて、屋根は緑でした。ジェームズは寝室で眠り、もう１人の宣教師は居間で寝ていました。キッチンとバスルームは外にありました。この地域には電気も水道もありませでした。携帯電話を充電するためには、夜、10 ペソ（27 円）を払って発電機につなげなければなりませんでした。町長も同じ通りに住んでいました。

この島の人々のほとんどがクリスチャンではありませんでした。しかし、クリスチャンも何人か住んでいて、ジェームズの任務はかつてアドベンチストだった人々に働きかけることでした。彼らに会って、信仰を新たにするよう求めるのです。

家が呪われていると言ってきた隣の家の夫婦は、別の教派に属していました。彼らはアドベンチストではなかったのでジェームズたちの任務の対象ではありませんでしたが、２人はこの夫婦にも伝道しようと聖書研究に誘いました。しかし彼らは断りました。そして、伝道用の小冊子も受け取りませんでした。

それで、ジェームズと友人は自分たちの毎日のデボーションにお隣を巻き込もうと決めました。夜に奇妙な物音が聞こえるほど自分たちの家の壁が薄いのなら、朝晩のデボーションも聞こえるのではないかと思ったのです。お隣の家の壁も薄かったので、この夫婦が起きているときは２人にもそれがわかりました。彼らはその時間に合わせてデボーションを行いました。讃美するときは、心を込めて歌いました。聖書を読むときは、群衆に聞かせるように大きな声で読みました。

ジェームズはこの夫婦の救いのために祈りました。

何か月か過ぎました。ジェームズは自分たちが借りた家に何もおかしなことは感じませんでした。１人で家にいても、何か奇妙な存在を感じたことはありません。夜に聞こえてくる音と言えば、コオロギ、蛙、またそのほかの、神様の造られた夜行性の生き

物の鳴き声だけでした。

ジェームズと友人は、かつてのアドベンチストたちと共に祈り、彼らを励まし続け、その年を過ごしました。小さなコミュニティが信仰のうちに成長していくのを見て、彼らは喜びました。

バプテスマは彼らの任務には含まれていませんでしたが、ジェームズと友人が滞在を終えるときに、2人の若者がバプテスマを希望しました。ジェームズはとても驚きました。この若者は2人ともアドベンチストではない家庭の出身でした。彼は神様が彼らの心に触れてくださったことに感謝しました。

隣の家の夫婦については、讃美歌や聖書の学びを大きな声でしたことが彼らに何らかの影響があったかどうか、ジェームズはわかりませんでした。しかし、彼が去ろうとしたとき、二人はどうか残ってほしいと言ってきました。

「私たちはあなたたちが来てからぐっすり眠れるようになったんです」と、夫が言いました。

「どうか残ってください」と妻が言いました。

この時、ジェームズは、神様が本当に彼らの心に働きかけてくれたことに気づきました。

フィリピンの大切な人々、特に遠隔地にいるまだ福音が宣べ伝えられていない人々のためにお祈りください。また、命を救う真理を彼らに伝えようとしている宣教師のためにもお祈りください。ジェームズは、南アジア太平洋支部内にあり、今期の13回献金の一部を受け取ることになっている1000人宣教師運動の一員としてこの島を訪れました。1000人宣教師運動は、毎年支部内の1000人の宣教師を訓練して派遣することを目標にしています。ジェームズが宣教師になるための訓練を受けた1000人宣教師運動のセンターは、1996年の13回献金の助けを受けてフィリピンの首都マニラ近郊に建設されました。6月28日にささげられる、南アジア太平洋支部への皆様の惜しみない13回献金を感謝します。

〈お話のヒント〉

- フィリピンを地図で示してください。
- YouTubeで、1000人宣教師運動のキャンパスにいるジェームズを見てみましょう。bit.ly/James-SSD
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ssd-2025

- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。
  「牧師のみならず、全世代の教会員一人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）
  「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分でない地域に住む人々に対するアドベンチストの働きを強化し多様化させる」（「伝道の目標」No.2）
  「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
  詳細はウェブサイトIWillGo2020.orgをご覧ください。

宣教メモ

- 1905年にオーストラリア教団のG.A.アーウィン総理は、世界総会に向かう途中にフィリピンに立ち寄りました。その際、セブンスデー・アドベンチストはマニラに文書伝道者を派遣して、この地で働きを始めるべきであると勧めました。
- 1905年の後半に、R.A.コードウェルがオーストラリアから到着し、スペイン語による健康に関する本と宗教に関する本を販売しました。
- 1920年代半ば、フィリピンの言語で書かれた聖書が不足しました。聖書を印刷していた日本のキリスト系の出版社が、1923年9月に起こった関東大震災で被災したためです。

4. 規則が多すぎる　インドネシア

フェビオラ

インドネシアに住んでいるフェビオラが悲劇に見舞われたのは、彼女が生まれる前のことでした。フェビオラの父親が亡くなったのは、母親が彼女を妊娠して３か月のときでした。

そして、フェビオラが 18 歳のときに、母親が亡くなりました。

その２年後、祖母が亡くなりました。祖母の死は彼女にとって最もつらいものでした。フェビオラは人生のほとんどの期間を祖母と暮らしていたので、彼女なしの生活を思い描くことができませんでした。

祖母が亡くなったとき、フェビオラは看護師になるために勉強をしていました。彼女は、クラバット大学の寮に住んでいました。彼女の姉がセブンスデー・アドベンチストの大学を勧めてくれたのでした。

「寮に残ってもいいわよ。規則があるけど、規則は良いものだからね」と、姉は言いました。

フェビオラは、規則が良いものだと言われてもピンときませんでした。大学にはとても多くの規則があるようでした。祖母と暮らしていた昔の生活と比べると、圧倒されるほどでした。フェビオラはとても窮屈に感じました！

規則の一つに、寮にいる学生たちは朝晩の寮の礼拝に出席しなければならないというものがありました。また、毎週安息日に大学の教会で行われる礼拝に出席しなければならないという規則もありました。

フェビオラは神様や聖書にまったく興味がなかったので、姉に規則について文句を言いました。

「いいから続けたらいいわよ。後悔しないから。規則は良いものよ」と、姉は言いました。

フェビオラは規則が良いと言われてもやはりよくわかりませんでした。しかし、とりあえず大学の規則とおりにやってみようと思いました。

フェビオラのルームメイトは３人のアドベンチストの学生でした。ルームメイトたちは部屋でのお祈りと礼拝に彼女を誘いました。また、金曜日の夜に一緒に安息日を迎えようとも誘ってくれました。

フェビオラは寮での朝晩の礼拝や教会での安息日礼拝に義務的に出席しなければならないことがあまりうれしくありませんでした。ルームメイトたちが礼拝の集会に喜んで出席するばかりか、それを寮の部屋でもやろうとしていることが理解できませんでした。

彼女の心に好奇心が芽生えました。

「なぜ安息日に礼拝するの？」と、彼女はルームメイトたちに尋ねました。

「安息日に礼拝することについてもっと知りたければ、牧師先生にお願いして説明してもらえるわよ」と、ルームメイトは答えました。

フェビオラは、牧師先生と聖書について話す用意ができていないと答えました。

「気まずかったら話さなくてもいいわよ。大学で宗教の授業を６つ取らないといけないから、そのときに安息日についてもっと知ることができるわよ」

クラバット大学の学生たちは全員宗教の授業を６

つ受けることになっていました。フェビオラはこの授業に出て、安息日についての疑問への答えを見つけることができました。黙示録についての最後の授業が終わった時、彼女は先生に聖書研究をしたいと言いました。

次の学期、熱心な聖書研究が始まりました。舎監のデリーと彼女の夫が一緒に聖書を学んでくれました。やがて、フェビオラは神様を個人的な救い主として受け入れる決心をしました。彼女はイエスに心をささげてバプテスマを受けました。

バプテスマから数か月して、新しい喜びが彼女の心を満たしました。彼女は父親と母親、祖母を亡くしましたが、大学で新しい家族を得たのです。寮の舎監とその夫は両親のようで、ルームメイトたちは姉妹のようです。それに、大学の規則を窮屈に感じなくなっていました。

「規則は私のためにあると、今は思っているわ」と、彼女は微笑んで言いました。

宣教メモ

- 初めてインドネシアを訪れたセブンスデー・アドベンチストは、アブラム・ラ・ルーでした。彼は1888年から1903年の間のいずれかの時期にジャバにいました。
- インドネシアにおけるアドベンチストの働きは、R・W・マンソンが1900年にスマトラ島西岸のパダンに伝道本部を開設したことから始まりました。
- インドネシアにおける働き人の訓練のための最初のアドベンチストの学校は、1929年にジャバに建てられました。当時は「アドベンチスト宣教師訓練学校（オランダ語でOpleidingsschool der Advent-Zending）」と言いましたが現在ではインドネシア・アドベンチスト大学という名称です。
- 第二次世界大戦により、アドベンチスト宣教師訓練学校は1942年に閉鎖を余儀なくされました。何名かの教師が強制収容所に送られ、そのうち2人が亡くなりました。

フェビオラはインドネシアのマナドという都市の近くにあるクラバット大学のエーデルワイス寮に住んでいます。この寮は、1981年の13回献金の助けによって建てられました。フェビオラは、その寮の舎監とその夫がバプテスマに導いた多くの若い女性たちのうちの一人です。神様の恵みにより、今期の13回献金は、44年前にクラバット大学の寮を建てた献金と同じように、長く影響を与えることでしょう。6月28日に、惜しみなく13回献金をささげてくださることを感謝します。

〈お話のヒント〉

- インドネシアを地図で示し、スラウェシ島の北端にあるマナドという都市を探してください。クラバット大学はマナドの近くにあります。

- YouTubeでフェビオラを見てみましょう。bit.ly/Febiola-SSD
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ssd-2025

- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。
  「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分でない地域に住む人々に対するアドベンチストの働きを強化し多様化させる」（「伝道の目標」No.2）
  「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
  「……青年の入信……を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
  「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
  詳細はウェブサイトIWillGo2020.orgをご覧ください。

5. 教会のない町のための祈り　インドネシア

ジェリー

ジェリーは子どもの頃、インドネシアのパプア州の町々に住む教会員たちを訪問する父親についていっていました。セブンスデー・アドベンチストの牧師だった彼の父親は、アドベンチスト教会のない町に来ると、しばしば足を止めました。そして、「神様、いつの日かこの町に、アドベンチストの教会をお与えください」と祈るのでした。

ジェリーは神様がこのお祈りに応えてくださるのを見ました。ある町では、父親が祈ってから5年後に教会が設立されました。別の町では、20年後に教会が建ちました。

ジェリーは父親の背中を追って、パプア州で牧師になりました。センタニ湖という湖の近くに住む教会員を訪れた時、何年も前に父親が祈った町々に教会がいくつも建っているのを見て感銘を受けました。

しかしその時、彼はアドベンチストの教会もなければ、アドベンチストの信徒さえもいない、センタニ湖近くの町を目にしました。彼の乗った小さな舟はそのヨボイという町を通って、教会員のいる別の町に向かっていました。

ジェリーは教会のない町のために祈っていた父親の習慣を思い出しました。そこで船を操縦していた人にスピードを落とすように頼みました。ヨボイの人のために祈りたいと思ったのです。彼は頭を垂れて祈りました。「神様、いつかこの町にアドベンチストの教会をお与えください」

それから何が起こったでしょう。あとになってから彼は、何が起こったのかを知りました。

このヨボイの町でよく知られた住人が、ジェリーの祈りの2か月後、イスラエルに聖地旅行に行きました。ソンスという名前のその男性は、日没の時刻にエルサレムのホテルの窓から外を眺めていた時、通りの様子がいつもと違うことに気づきました。サイレンが鳴り、バスはターミナルへと急ぎます。それから、すべてが静かになりました。

ソンスが時計を見ると、金曜日の夜でした。ユダヤ人は安息日には仕事をしないことがわかりました。

それから彼は、パプア州で一緒に働いた何人かのアドベンチストたちも金曜の日没から土曜日の日没まで仕事をしなかったことを思い出しました。彼は不思議に思いました。「アドベンチスト教会もイスラエルの人々と同じ日に礼拝している。なぜ私の教会はしないのだろうか。私の教会もイスラエルの神様を礼拝していると言っているのに」。彼は帰国したらその答えを見つけ出そうと決心しました。

パプア州に戻ると、彼は近くの町のアドベンチスト教会に行き、そこで伝道集会が開かれていることを知りました。その教会の牧師のジェリーは、ソンスをその集会に招きました。

集会で、ソンスは安息日に関するすべての疑問についての答えを見いだしました。彼は安息日を守ることを決心し、彼と彼の妻はアドベンチストになりました。

彼らのバプテスマからほどなくして、ジェリーはヨボイにある彼らの家を訪ねて、家の教会を設立するのを手助けしました。これは彼の祈りに対する応

えであり、ジェリーの父の遺産を受け継ぐことでもありました。

「父が私に残してくれた遺産にとても感謝しています」と、ジェリー・ジェイコブスは言います。彼は今、クラバット大学のアドベンチスト教会の牧師をしています。「神様、いつの日かこの町に、アドベンチストの教会をお与えくださいと、祈り続けましょう」と、彼は言います。

インドネシアのパプア州にあるヨボイという町のためにお祈りください。また、この州のほかの場所にも福音が届き、多くの教会が建つようにお祈りください。今期の13回献金の一部は、パプア・アドベンチスト神学大学に新しい教室、管理棟、図書館、講堂を作るために使われます。この大学は、元はパプア州の別の場所にありましたが、2019年の洪水で被害を受けたため、ナビレという町に移転しました。現在、学生たちはアドベンチスト高校の教室を借りて学んでいます。この大学における牧師と聖書の働き人の訓練をサポートするための、皆様の惜しみない13回献金に感謝いたします。

豆知識

- インドネシアの国の花はマツリカ（ジャスミン）です。国の動物はコモドオオトカゲです。
- コモドオオトカゲは、世界最大のトカゲです。今まで目撃された最大の個体は、体長3.13メートル、体重166キロです。
- コモドオオトカゲが生息するのは、インドネシアのいくつかの島に限定されています。その中にはもちろんコモド島があります。
- 絶滅危惧種のスマトラトラは、インドネシアのスマトラ島の固有種です。バリトラとジャワトラはもう絶滅しています。

〈お話のヒント〉

- インドネシアのパプア州の場所を地図で示してください。
- YouTubeでジェリーを見てみましょう。bit.ly/Jerry-SSD
- ジェリーの父親のジミー・ジェイコブスは、2020年に腎不全で亡くなりました。
- ジェリーは町のために祈っていた父親の習慣をマンションに応用しました。シンガポールに住んでいた5年間に、彼はエントランスがオートロックになっているマンションのために祈り、神様はそこに住んでいる人々に証しをする方法を与えてくださいました。何人かの住人がアドベンチストになりました。
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ssd-2025
- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。
  「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）。
  詳細はウェブサイトIWillGo2020.orgをご覧ください。

6. ジャングルの奇跡　インドネシア

アルミ

アルミは、ジャングルの中にあるキリスト教の学校で教えています。ある日、その学校で学ぶ小さな女の子がアルミに、お母さんは歩けないのだと伝えてきました。

アルミがインドネシアのパプア州にある山の中に来たのは、治療を施すためではありませんでした。彼は医者ではなかったので、医学についてはよくわかりません。彼は宣教師で、子どもたちに偉大な癒し主であるイエス様を伝えるためにこのジャングルの中のキリスト教の学校に来たのでした。しかし、歩けないという母親の話を聞いて彼の心は動かされました。そこで、彼と仲間の宣教師は、山の中を８時間歩いて、人里離れた村に住むその女性に会いに行くことにしました。

アルミと友人は、草でできた小さな小屋で母親を見つけました。彼女はベッドの上で、痛みのために泣いていました。彼女の右膝には開いた傷口があり、腫れあがっていました。

アルミと友人は、彼女の言っていることがあまりよくわかりませんでした。そして彼女も、彼らの言っていることがよくわかりませんでした。異なる方言を話していたからです。しかし、母親は身振り手振りで、７年前に木から落ちたこと、それ以来歩けなくなってしまったことを伝えました。この村はとても不便なところにあったので、医者に来てもらうことも、病院に行くこともできませんでした。木から落ちてから、夫は彼女を見捨て、出て行ってしまい、残された４人の子どもは彼女が育てなければなりませんでした。

母親は彼らが訪ねてきたことを喜びました。彼女はすべての希望を失っていましたが、アルミと友人に新しい希望を見いだしていることを伝えました。「また歩けるようにしてください」と、母親は熱心に願いました。

アルミと友人は小屋の外に出ました。偉大な癒し主に祈る必要があったのです。「主よ、知恵をお与えください。私たちは医療についてはよくわかりません。この女性を助ける方法をお示しください」と、アルミは祈りました。

小屋に戻ると、アルミたちは注意深く傷口をきれいにしました。彼らの顔には汗がにじみ出ました。彼らは傷がますます悪くなるのではないかと心配しました。近所の人たちがその様子を見に小屋までやって来たので、アルミたちは本当に汗をかき始めました。近所の人たちが一挙手一投足を見ているので、自分たちの命は危険にさらされているのではないかと彼らは考えました。

それからアルミはこの女性に、イエス様について話しました。「あなたを助けることができるのは１人だけです」と、彼はジェスチャーを使いながら言いました。「その１人のお方とは、イエス様です」

母親はイエス様について聞いたことがありませんでした。近所の人たちもだれ一人、イエス様について聞いたことがありませんでした。彼らは神秘主義を実践していたのです。「あなたの言うイエス様という人のことは何も知りません。しかし、私の健康を取り戻してくれるのなら、だれでも受け入れます」と、母親は言いました。

傷口をきれいにすると、アルミは自分のリュックに入っている唯一の自然療法のための、チャコール

とビタミンCのタブレットを取り出しました。それから母親と近所の人たちに、一緒に祈るよう勧めました。アルミが祈って目を開けると、母親と近所の人たちが泣いていました。彼は驚いて、何が起こったのかと考えました。アルミとは異なる方言を話す近所の人たちが、祈りが自分たちの心を動かしたのだと説明してくれました。

「まるで、だれかがあなたの祈りを通訳して私たちの耳に教えてくれたかのようでした」と、ある人は言いました。「あなたが祈っている間、私たちの周りを取り囲んでいるだれかの存在を感じました」と、別の人が言いました。

それからアルミは振り返って母親の顔を見ました。その顔はすっかり変わっていました。さっきまでは痛みと苦しみの中にいた顔が、今は喜びと平和で輝いていたのです。

アルミはまた様子を見に次の週に戻って来ると約束しました。

アルミと友人はまた8時間かけて山道を歩いて帰りました。彼らは歩きながら祈りました。母親を助けるために、どうすれば医学的な情報を得るための電話をかけられるだろうか。どこで携帯電話はつながるのだろうか。彼らは山の中に住んでいて、携帯電話の電波はもう何か月もの間、届いていませんでした。

パプア州に住んでいる、まだ福音が宣べ伝えられていない人々のためにお祈りください。今期の13回献金の一部は、パプア・アドベンチスト神学大学に新しい教室、管理棟、図書室、講堂を作るために使われます。この大学は、元はパプア州の別の場所にありましたが、2019年の洪水で被害を受けたため、ナビレという町に移転しました。現在、学生たちはアドベンチスト高校の教室を借りて学んでいます。13回献金によって、この大学をサポートしてくださることを感謝いたします。

〈豆知識〉

- インドネシアで一般的な料理には、ナシゴレン（炒めたご飯）、カレドック（ピーナッツソースで合えた生野菜）、ガドガド（ゆで卵、ゆでたジャガイモ、厚揚げ豆腐とピーナッツドレッシングのサラダ）などがあります。

〈お話のヒント〉

- インドネシアのパプアを地図で示してください。
- 母親の住む村までの8時間の道のりは、パプア州でのアルミの働きがいかに広範囲におよぶかを示すほんの一例です。彼が住んでいた、ジャングルの中の学校のある村に行くには、伝道用飛行機でジャングルにある滑走路まで飛び、そこから12～14時間歩かなければなりませんでした。
- YouTubeでアルミを見てみましょう。bit.ly/Armi-SSD
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq
- 南アジア太平洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。bit.ly/ssd-2025

- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の、以下の項目の具体例です。

「牧師のみならず、全世代の教会員一人ひとりが世界伝道という考えを持ち、その使命のために献身する生き方を、キリストの証人となり弟子を作るという喜びにより実践すること」（「伝道の目標」No.1）

「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分でない地域に住む人々に対するアドベンチストの働きを強化し多様化させる」（「伝道の目標」No.2）

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）。

「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）。

詳細はウェブサイトIWillGo2020.orgをご覧ください。